

令和6年度 江東商業高等学校 年間授業計画（2学年用）

教科：（ 保健体育 ） 科目：（ 保健 ） 単位数：（ 1 単位 ） 対象：（第2学年A組～E組）

教科担当者：（ A組：野口 ）（ B組：佐藤 ）（ C組：佐藤 ）（ D組：佐藤 ）（ E組：松山 ）

使用教科書：（ 現代高等保健体育 保体701 大修館書店 ）

教科・科目の目標：

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の観点：

【知識・技能】：知	【思考・判断・表現】：思	【主体的に学習に取り組む態度】：主
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

	単元項目	学習内容	評価規準	評価の観点			配当 時数
				知	思	主	
1 学期	オリエンテーション 2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	・事故の実態と被害の実態について学習する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて学習する。 ・安全のために必要な個人の行動について学習する。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について学習する。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について学習する。 ・交通事故における責任について学習する。	(知) 事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (主) 安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○	○	○	4
				○	○	○	3
	4 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	(知) 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 応急手当について、安全に関わる原則や概念を	○	○	○	3

2 学 期	5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	・食事と健康の関係について学習する。 ・健康的な食事のとり方について学習する。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について学習する。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について学習する。	基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 (主) 応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	3 単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。 ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。	(知) ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。		○	○	○	3
	7 中高年と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	(思) 生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道をたてる。 (主) 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3

3 学 期	10健康的な職業生活	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。					3
	定期考査			○	○		1
	4 単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、登城汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	(知) 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	○	○	○	3
	4 ごみの処理と上下水道		(思) 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 (主) 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
合計							35